

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<p style="text-align: center;">平成17年度 国務大臣・内閣府 特命担当大臣・ 経済財政政策担当 大臣賞受賞</p>	<p>受賞者名 クリーンむさしのを推進する会</p>
	<p>所在地 東京都武蔵野市</p>
<p>1. 活動継続 あり</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 市内全町地域集会(12 か所、参加者 300 名以上)をごみ減量をテーマに毎年 5～6 月に実施。 市民集会を環境問題(ごみ減量、容器リサイクル、生ごみ堆肥化など)をテーマに毎年 2 月に開催。平成 29 年は「食品ロスについて考える」をテーマに開催(右図)。参加者 150 名。 陶磁器リユース、生ごみ処理容器のあっせんも継続。 毎年バス研修会として環境関連施設を見学。(下図左) 落ち葉の堆肥化は平成 23 年原発事故のため休止していたが、現在 6 か所で復活。(下図右) 	
	
<p>PET ボトルリサイクル工場見学</p>	
<p>2017 年市民集会の開催案内</p>	
<p>2. 活動の広がり あり</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 生ごみのたい肥化と元気野菜作り 高齢者施設、保育園、生花店でも新たな取り組みを進めている。新クリーンセンター(市ごみ処理施設)の屋上で、運営管理会社との協働で平成 29 年 4 月から屋上菜園の運用を開始した。(下図左) ごみ環境ビジョン 21 との共催講演会を開催(平成 28 年) 「ペットボトルやレジ袋が海ごみに大きな影響を与えている」ことを学んだ。(下図右) 	
	
<p>新クリーンセンターの屋上菜園</p>	<p>ごみ環境ビジョン 21 との共催講演会の開催案内</p>

3. 活動の進化 あり

- ごみ減量につながる武蔵野市との協働事業
「3R連続環境講座」、「武蔵野ごみニュース全戸配布」、「さくらまつり・青空市の分別指導」、「ごみ分別案内所」(左下図)、「マイバッグキャンペーン」の取り組みを行っている。
- PETボトルの店頭回収をすすめるちらし
本会独自のちらしを制作し全戸に配布した。(右図)



ごみ分別案内所



PETボトルの店頭回収を
すすめるちらし

4. 今後の計画

今後、食品ロスも重要テーマとして取り上げる。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

項目	概要
受賞者名	クリーンむさしのを推進する会
所在地	東京都武蔵野市
開始時期	1978年
活動の区分	啓発普及等
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接市にある中間処理施設の周辺住民からの抗議と市の自区内処理の方針化のため「もうごみ場がない！みんなで考えよう」ごみ問題市民集会を昭和52年（参加者450名）及び53年に開催。これを契機に会を結成して活動を取り組む。 ・毎年実施しているが、平成16年度では市内全町地域集会（12カ所・参加者約600名）、市民中央集会（参加者約160名）、シンポジウム（参加者約180名）を開催。市主催の家庭ごみ有料化説明会（93カ所・参加者約6,300名）の運営に参加。会主催は12カ所（参加者約400名）。
開始時期	2002年
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・どんと焼きにマイ箸・マイカップ・マイ容器持参活動（会員個人が平成8年から実施）。平成14年からイベント（夏から秋のお祭り、コミュニティセンターの文化祭など）に広げた。施設見学の際の昼食にマイ箸、マイカップ持参。イベント食用容器は非プラスチック製（さとうきび殻）を使用し、使用後は市立公園に埋めて発生抑制を図る。新聞の折込みチラシは断る、通信販売は返送する。
開始時期	2002年
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にある不要品の再利用（レジ袋、陶器、雨用のビニール袋など）。 ・古傘を利用したマイバッグ取り組み。不要になったレジ袋をイベントやフリーマーケット（マイバッグもPR）で再利用。 ・家庭から排出する可燃ごみのうちの雑紙（新聞チラシや通信販売など）が減少し、可燃ごみ総量が減った。（平成16年10月に家庭ごみ有料化により、雑紙を資源化したため約10%減量）
開始時期	1978年
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・集団回収（昭和54年）、陶食器リサイクル（平成15年）、学校の落ち葉堆肥及びコミュニティセンターのお茶殻の堆肥化（平成15年）、割り箸（平成10年）、生ごみ処理容器の斡旋（平成16年度・56台）。夏から秋の地域のまつりやイベント、コミュニティセンターなど文化祭で使用する飲食容器は非プラスチック製容器（さとうきび殻）を使用し、その後に堆肥化で活動。